

ミニマル装置を 世界に発信!

- 海外発注可
- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンライン技術
- メイドインジャパン



赤外線集光式加熱炉で“その場観察”

業務内容 “加熱時の材料変化、 その場観察”を実現

「米倉製作所」は、金属の材料試験に欠かせないシャルピー衝撃試験機の開発・製造を起点に創業した。後発だったものの、計装化などの顧客ニーズを捉えた機能の搭載が評価され、今では研究所向け試験機を幅広く手がける。平成12年発売の赤外線集光式加熱炉は、加熱・冷却時の材料変化を“その場観察”できるのが特徴。現在は2,000℃までの観察を可能とし、材料開発の現場を支える。

同社の製品は量産現場でも活躍する。平成15年に発売した燃料ポンプ性能検査装置が有名で、世界大手の自動車部品メーカーが生産ラインで採用。活躍の場を広げた。

強み ソフト開発で高い評価

平成元年頃には、一品モノの自動車部品用耐久試験機などの自動車業界向け供給を開始。燃料ポンプ性能検査装置の部品生産ラインでの採用は知名度を一気に高め、取引先が急速に広がり、業績を大きく飛躍させた。「機械の設計・生産に加え、制御ソフト、データ処理ソフトまでをすべて自社で手がけた。特にソフト開発で高い評価を得た」と、大西康弘専務は振り返る。この強みを生かすべく、平成20年に企業体制を刷新。機械設計と制御ソフト設計、解析ソフト設計に経営資源を集中した。企業規模の拡大する中、新規領域に挑戦するチャンスも得ることになった。

人材育成 次代を担う人材育成

大西専務は「大手メーカー開発担当者には優れた人が多く、ものづくりのレベルも相当高い。受注製品の製作を通して社員は良い

刺激を受け、多くの学びがある」と指摘する。新領域への挑戦ではミニマルファブ研究会に参画し、培った集光加熱の技術により平成27年に「ミニマル集光式酸化炉」を開発した。ミニマルファブとはハーフィンチウエハーを製造基板単位とする半導体製造生産システムであり、開発した装置はウエハーに酸化膜を形成する。同社の将来を担う事業と位置付けており、このようなミニマル装置の新型開発でタッグを組む研究機関や大学へ技術者を派遣し、次代の人材育成にも力を入れる。

今後の展望 レジスト除去工程向け 新技術

新型はプラズマ技術を応用した「ミニマル水プラズマアッシング装置」で、平成30年度後半の市場投入を目指して開発を進めている。半導体製造プロセスのレジスト除去工程向け新技術で、純水のみを使用した環境にやさしく、かつ処理時間を大幅に短縮したプロセスの実用化が期待されている。

このほか、材料試験分野向けでも共振を用いた新型の「組合せ曲げ捻り疲労試験機」を大学と共同開発し、平成29年秋から提案活動を始めている。

ミニマル装置は世界的に注目されている。同社は利益の大半を開発投資する力の入れよう、で活躍の場はさらに広がりそうだ。



若手技術者がミニマル装置の開発担当



大西康弘専務を交え、社内で設計討議

当社の歴史



平成12年の高温系装置市場への参入を皮切りに事業の多角化を推進。以降、「果敢に挑戦」「世界に発信!」を胸に17年間、社員一同取り組んで参りました。多様な要求に応え、装置を開発してきた実績は我々の大きな財産であり、社員の自信となっています。

専務取締役 大西 康弘さん

<http://www.caty-yonekura.co.jp/>

全国28 ISO 9001

主な事業内容

集光式加熱炉、材料・自動車部品試験機、ミニマル装置などの開発・製造

主な取引先(納入先)

自動車メーカー、自動車部品メーカー、鉄鋼メーカー、半導体メーカー、国立研究所、大学等研究機関

- 住 所 〒554-0024 大阪市此花区 島屋4-4-3
- T E L 06-6464-6066
- F A X 06-6462-2128
- 創 業 昭和55年10月
- 設 立 昭和55年10月
- 資本金 3,500万円
- 従業員 37名